

編集後記

御覧のごとく、本号も原著論文11篇、臨床報告2篇、130頁を越える恥ずかしくない厚さになりました。今後もこのくらいの数の論文が毎号投稿されれば有り難いと思っております。

先般の松本歯科大学学会総会でご報告しましたように、第11巻より急に本誌の頁数が増加しましたが、その理由を調べてみたところ、臨床系の原著論文の急増に依ることが分かりました。第6巻から第10巻までの5年間の基礎系と臨床系の原著論文は、それぞれ1号当り平均4.3篇と0.7篇でした。ところが、第11巻と第12巻2号までの4号では、4.8篇と4.3篇になっています。臨床系の先生方の今後なお一層のご努力をお願い申し上げる次第です。

ところで、臨床系の先生方の原著論文が急増した理由ですが、これは編集子にはよく分かりません。本学の大学院設置期待の反映かも知れませんし、学位論文を書かれる先生方が増えてきて、それが全体の研究意欲を刺激しているのかも知れません。何れにせよ、この現象が一時的なものでなく、投稿原稿が少なくて編集子が悩むことのないようお願いしております。

先般の編集会議で、松本歯学を学術刊行物に認めさせるにはどうすれば良いかということが議題になりました。いろいろ条件があって簡単にはいかないようですが、その条件の一つに学会が経済的に大学から独立していなくてはならないというのがあります。本学会の経済的基盤は会員の皆様の納入下さる会費にある訳ですが、現在大学からかなりの経済的援助を受けています。早く独立出来るよう、卒業生の会員の皆様も全年会費をきちんと払って頂くという形でご協力下さることをお願い致します。

(野村浩道)

松 本 歯 学 第12巻 第2号 (非売品)

1986年 8月25日 印刷

1986年 8月31日 発行

編集兼発行者 加 藤 倉 三

発 行 所 松本歯学大学学会

399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 0263-52-3100

印 刷 所 電算印刷株式会社

390 松本市筑摩3270 電話 0263-25-4329
